

地域の皆様に支えられて

1,000分の1

これは何を表した数字だと思いませんか。

ある研究で出された「1か月の間に、大病院に入院が必要になった住民の人数」だそうです。1,000人のうち1人です。この研究は、1961年にアメリカの有名な医学雑誌に発表されたものです。下野市の人口は約6万人ですから単純計算で60人くらいになります。この60人という数字を多いと感じるでしょうか、それとも少ないと感じるでしょうか。

この研究では、ある地域に住む16歳以上の1000人の人たちが、1か月の間、どういった健康状態であったか、どういった行動をとったかを調べました。その調査結果を見ますと、1000人のうち、なんだか身体がおかしいと健康上の問題を感じた人が750人。その750人のうち、セルフケアをしても良くならず、地域の診療所を受診した人が250人。その250人のうちで地域の病院への入院が必要だった人が9人。さらにその9人のうちで専門病院への紹介が必要だった人は5人。最後に、その5人の中で大病院に入院が必要だと判断された人は1人だったそ

うです。もちろん地域の医療の特性によって多少の違いはありますが、必ずしも下野市に当てはまるとは限りませんが、他の研究でも同様の結果が出ていることからある程度信頼できる数字だと思えます。

このお話、いかがでしょうか。私が最初にこの研究結果に出会ったのは大学生の時でした。その時は、なるほどなあと思っただけでしたが、研修医として実際に働くようになり、改めてこの研究結果を見ますと、地域住民一人一人のセルフケアやそれぞれの病状に合わせて適切な医療機関で治療を受けることの大切さ、地域医療が抱える課題などを身近に考えられるようになりました。そして、各医療機関が役割を分担し、地域の医療を支え合い、住民の皆様の健康を守っていくことの必要性を実感しているところです。

研修医って何者？

研修医ってどんなことをしているの？そう疑問に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、主に入院患者さんを担当し、上級医師の指導のもと、入院患者さんの診察をしたり検査をしたりしながら実際の医療現場で医学や治療方法など

を学んでいます。専門の科に属せずに数か月単位で各科をローテーションし、幅広い知識・技術のある医師を目指して頑張っています。医師としてはまだまだ未熟ではありますが、患者さんのために責任を持って勉強診療にあたっています。

患者さんは先生

同じ病気であっても患者さん一人ひとり症状は違いますし、いくつか病気を併せ持っている方もいます。性格や家庭環境も様々です。ああでもないこうでもないと思ひ悩み調べなが



消化器内科科ローテーション時の同期と。切磋琢磨できる仲間にも感謝。

ら、それぞれの患者さんに一番適した検査や治療を考えています。

また、多くの患者さんは、人生の先輩でもあります。温かい言葉をかけていただいたり、豊富な人生経験をお聞きしたりし、医師としてだけでなく人としても成長させていたでいていのかと思っています。患者さんにご協力していただき、教えていただくことが多い毎日です。感謝の気持ちを大切に日々精進していきたいと思えます。

今後、この2年間の研修が終了すれば外来を担当したり、地域の病院で診療したりすることになると思っています。今、私たちが関わらせていただいている方は、地域の方々の約1000分の1です。体調不良を抱えている方のほんのごく一握りにすぎません。今、私が診療に当たっている入院患者さんの向こう側には、ご自身で体調管理に気を付けたり、地域の診療所や病院で治療を受けたりしている方々が大勢います。背景にいらっしゃる999人に思いを馳せながら目の前の患者さん一人ひとりの診療をしていきたいと考えています。

研修医一同、精一杯頑張っていきますので、今後とも下野市の皆様よろしくお願いいたします。

卒後臨床研修センター ジュニアレジデント2年目
いけだ 恵理子
池田 恵理子